

『香川大学検定 2010』プロジェクト

代表者 河原 勝浩 (経済学部経済学科2年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業の第一の目的は、まず香川大学生に香川大学のことをより深く知ってもらい、香川大学のことを好きになってもらえるような検定本を作成することである。そして、第二の目的は、定本を通して学生だけでなく、地域の方々や卒業生の方々にも配布し、香川大学の行っている活動などを知ってもらい、地域と香川大学がより近い存在になるようなきっかけを作ることである。

概要としては、一度読んだら終わりというパンフレットのような形にするのではなく、検定本という形にして手に取りやすく、また何度も読んでもらえるようなものを作り、発行するというものである。そして、その検定本を配布し、検定本を通してたくさんの人に香川大学のことを理解してもらおうというものである。

2. 実施期間 (実施日)

平成21年7月～平成22年1月13日

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクトのコンセプトとして、「魅力新発見」・「自校教育」・「愛校心」の3つが挙げられる。このコンセプトに基づいて、私たちは『香川大学検定 2010』の作成を行った。そして、このプロジェクトの第一の目的である『香川大学検定 2010』を完成させたことが成果として挙げられる。

このプロジェクトを申請した当初、私たちはこの検定のもととなる『香川大学検定 2009』の問題を微修正するつもりでいた。しかし、第一回のミーティングで前回の検定本の反省を行った結果、「興味のある問題を多く取り入れよう」と「問題を取り組みやすいものにしよう」ということが挙げられた。そして、当初の予定を大幅に変更して問題を作り直すことにした。

具体的には、香川大学や地域などに貢献しているサークルや団体を中心に、その活動内容を問題にし、より香川大学で行われている特色ある取り組みを問題として掲載した。また、コラムを前回の『香川大学検定 2009』より増やし、より興味を引き、読みごたえのある検定本になるように工夫を行った。取り組みやすさとしては、解説が長い部分に関してはアンダーラインを引くなどの工夫を行った。

結果、『香川大学検定 2009』より質の高い検定本に仕上がったと感じている。



香川大学検定 2010(表紙)

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことによる影響として、まず学生に対しては、香川大学に普段通っているだけではわからない、大学や他学部の取り組みなどを知るきっかけを提供できたことが挙げられる。香川大学の学生として、香川大学のことを知り、香川大学に愛着をもつことは大切なことである。そういった意味で、香川大学検定は、学生に香川大学を知ってもらうよい手段になっていると感じている。

地域社会に対しても、香川大学に興味をもってもらえるよいきっかけになっていると感じている。昨年度と今年度の大学祭では『香川大学検定 2009』を一般の方々にも配布した。その時の感想として「すごくよくできている」「おもしろい」など好評をいただいた。

私たち MINTs(ミントス)の活動拠点である、キャリアカフェにも常時外部の方

の目に止まる場所に検定本を置いているため、外部の方の目にとまり、興味を示してもらったり、持って帰ってもらったりしている。そういった意味で、外部の方々から香川大学に興味を示してもらおうよきっかけ作りになっていると感じている。

また、学生の手で作成しているということを伝えると、香川大学の学生が積極的な活動を行っているという宣伝にもなり、香川大学の学生の評価の向上にもつながっていると感じている。

昨年度にはメディアに多く取り上げられた。それをみた香川大学に興味のある高校生や地域の方々から、取り寄せの連絡があり、香川大学を宣伝するという面でも役に立っていると感じている。(記事は昨年度のもの)



香川大学検定を取り上げた記事

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果

香川大学検定が私たちに与えた効果の一つとして、香川大学のことをより深く知ることができたということが挙げられる。この香川大学検定を作る際には、私たち学生だけの知識では作れないような問題がたくさんあった。そのような時には、教職員の方々に取材に行き情報を仕入れたり、図書館に行き、香川大学の歴史についての本を読んだりした。そういったことを繰り返していくうちに、編集員全員が香川大学のことをより深く知っていくことができた。

また、もう一つの効果として、一つの本を作成するのには、たくさんの時間や人々の協力ができないということがわかったことも挙げられる。一人

ひとりが自分の役割をきちんとこなしていくことが大切で、そういった積み重ねがあって、一つの検定本を完成させられたことが、私たちの中で大変よい経験になった。



『香川大学検定 2010』の編集会議の様子

6. 反省点・今後の抱負(計画)・感想等

まず反省点としては、当初の計画として大学祭で配布するという計画が実行できなかったことが挙げられる。しかし、時間をかけて作成したことにより、『香川大学検定 2009』より質の高い検定本が作成できたと感じている。今後の配布の予定として、ミントスが行う「学生による新入生のための履修相談会」で新入生に向けて配布をしようと考えている。また、外部の人が参加するイベントなどで配布できる機会があれば、積極的に配布したいと考えている。また、今年の大学祭では必ず配布したいと考えている。

さらに、この検定本をもとにして現在 WEB 版の香川大学検定の作成も行っている。この WEB 版が完成すれば、さらに多くの方々に香川大学のことを知ってもらうことができると考えている。

最後にこの検定本を作成するにあたり、経費をご支援いただいたプロジェクトの方々に感謝を申し上げます。

7. 実施メンバー

代表者 河原 勝浩(経済学部 2年)

構成員 松田 侑祐(経済学部 2年)

近成 麻子(教育学部 4年)

相田 卓哉(工学部 1年)

上野 裕美(経済学部 4年)

澤井 志織(教育学部 3年)

鳥羽 謙仁(経済学部 1年)